

お元気ですか

発行所・(福)横浜市社会福祉協議会
障害者支援センター

〒231 横浜市中区桜木町1丁目1番地
-8482 横浜市健康福祉総合センター9階
TEL 045(681)1211・FAX 045(680)1550
http://www.yokohamashakyo.jp/siencenter/

編集発行人・内嶋 順一

2022 / 3



「私の絵を選んでいただき、ありがとうございます。たくさんの方が私と一緒に喜んでくれました。とてもうれいす。皆が笑顔でいられる世界を描きました。私の絵からスマイルや幸せが広がっていくといいなと思います」

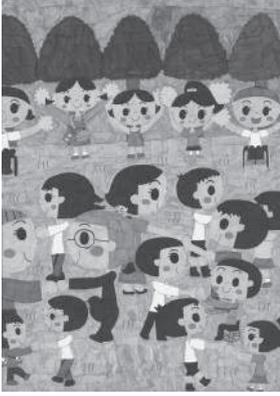
これは、令和三年度「障害者週間のポスター」で、最優秀賞(内閣総理大臣表彰)を受賞した際の上澤彩世さんの作品に込めた想いが伝わってくる。

十二月の障害者週間で、駅や街中で見かけたポスター。

この作品を描いた上澤彩世さんは、横浜国立大学教育学部附属特別支援学校中学部一年生。二歳から鶴見区の地域訓練会「エンゼルの会」に所属し、今も絵画や工作が好きで活動を楽しみにしている。

彩世さんの作品

三歳頃から、絵描き歌が大好きで、母が用意したDVDに夢中になり、絵を描くようになった。そして、いつしかペンやクレヨンを握り、二日でスケッチブック一冊を描き切ってしまうほどに。



スマイル!
出典:内閣府ホームページ

振り返ると:

をせずカラーペンで描き始める。今回の受賞作品も、「世界にはいろいろな人がいるよね。その人たちが笑顔で暮らせるように」と話した母の言葉から、彩世さんがイメージした風景だ。

小さい頃は場所見知りやひどく、地域の親子の集まりでは部屋にすら入れなかった。それが、なぜか訓練会の活動場所である活動ホームふれあいの家には、最初から入ることができ、笑顔で活動に参加することができた。それ以降、エンゼルの会が親子にとつての居場所のひとつに。

「他の場所では癇癢を起こすなど、うまくいかないこともあったけれど、『エンゼルの会でできるのだから、経験を積みめば必ず他でもできるようになるはず』と我が子を信じることで

できた。絵を描くことで不安定な気持ちを落ち着かせることができるようになったので、幼児期に好きなことを見つけたことができて、本当によかった」と母の智子さんは振り返る。

そして、「今回の受賞をエンゼルの会の仲間や協力者、ふれあいの家のみなさんなど多くの方が喜んでくれた。たくさんの方に支えられて、今の娘の成長と穏やかな生活があるのだと実感している」と語る。

名前のとおり、彩りのある世界を描き、まわりを笑顔にさせてくれる彩世さん。今後の作品が楽しみだ。



彩世さんと母の智子さん

望遠鏡

三年前、医者に「このままだと糖尿になりやすい」と脅され、一番金のかからない(後でこれは間違いと知る)ランニングが良からうと仕方なく走り始めた。だが徐々に走れる距離が伸び(タイムは伸びない)、坂を走って負荷をかけてやろうという欲も出るようになった。そんなある日の早朝、ローストビーフで有名な鎌倉山の坂道を息も絶え絶え登っていると、道の反対側を障害があるランナーが颯爽と下ってくるではないか。なんだらうか、その瞬間、疲労困憊していた身体の芯にポツと力がみなぎり、「ああ走っていて良かった」ともいわれぬ幸福感に包まれた。ごくありふれた日常の中で障害者と同じ苦楽をともにできるなんて、私は実に果報者である。

(障害者支援センター
センター長 内嶋 順一)



利用者の望月さん(左)と職員の木村さん(右)

「制限がある方にも、美味しいお菓子を食べて欲しい!」
**誰にでも勧められる
お菓子があります!**
 ～アムアムキッチン～

神奈川県にあるNPO法人ワークステーションが運営する『アムアムキッチン』。ここでは下請け作業とスイーツの製造・販売を行っている。十種類以上のクッキーと、パウンドケーキも五種類以上、その他にもフロランタンやガトーショコラなど、種類豊富な焼き菓子に加え、プリンは

カスタードと季節ごとに限定の味があり、ご近所からはどれも好評だ。そんなアムアムキッチンでは今年度から、食事制限がある方でも食べることが出来る低カロリーお菓子の製造販売を始めた。

きつかけは病院側からのお声
 アムアムキッチンでは月に一度、神奈川県にある済生会神奈川県病院で販売会を行っている。五年ほど前、同じくワークステーションが運営する事業所『ホワイトダイニング(当時の名称:ワークステーション)』に済生会の関係者から「何か協力でき

ることはないか」と声をかけられたことがきっかけだった。当初は焼き菓子のみを販売していたが、お客さんからの要望で、プリンの販売も始めた。すると、お客さんとして来ていた医療ソーシャルワーカーの方から、「病気で食事制限のある方でも食べられるものを一緒に作りませんか」と声をかけられた。

**低カロリーでも
美味しいものを**
 医療ソーシャルワーカー栄養士さんらと協力し、おからを使ったパウンドケーキや、バター不使用のクッキー、低糖質砂糖の使用など、試行錯誤を繰り返した

が、「コストがかかるのに味が落ちる」ということで、中々商品化には至らなかった。最終的に完成したのが、『豆乳プリン(八十一キロカロリー)』と『ちよいたべクッキー(八十七キロカロリー)』だ。これらは販売会に合わせて数量限定で製造・販売されている。

院内販売会を通して
 病院には様々な方が訪れる。取材日にも、販売会に院内放送を聞いて多くの病院関係者や患者さんが足を運んでいた。中には「食べたくても食べられない」という方もいた。職員の木村さんは、「今まではこちらとしても、勧めることが出来ないもどかしさがあった。試行錯誤の期間は大変だったが、病気の方にも安心して食べてもらいやすいものが出来て良かった」と話してくれた。

院内販売会は毎月第一火曜日十時半～十一時・正面入口を入れて左側廊下つきあたり。



実際の商品



実際のアプリ画面

「コミュニケーションカードアプリ 完成!」

学校法人岩崎学園 情報科学専門学校のシステム開発ゼミ(以下、「システム開発ゼミ」)の学生が、「セイフティィー ネットプロジェクト横浜」(以下、「Sプロ」と連携し、平成三十一年四月より制作を進めていた「コミュニケーションカード」を表示するアプリ。ついに令和三年九月二十九日よりGoogle Play、App Store でリリースを開始した。本取り組みは、システム開発ゼミの学生が日ごろから学んでいる専門性を生かし、Sプロと協力し行っていたもので、これまでにSプロからヒアリングや体験会を通じてフィードバック

を受けながら制作を進めていた。アプリでは、頻繁に使用するカードを登録できる「お気に入り登録機能」や、画面に合わせたカードの組み合わせをリスト化できる「マイリスト機能」の実装など、日常的に気軽に使用できるような工夫がされている。また、インターネット通信を行わないため、災害時などでのオフライン環境でも使用可能。誰でも気軽に使用して欲しいという思いから、本アプリは無料でダウンロードできる。ご興味のある方はぜひダウンロードを。(なおダウンロードにかかる通信料は利用者負担。)

令和三年度進路対策研究会 重心調査結果

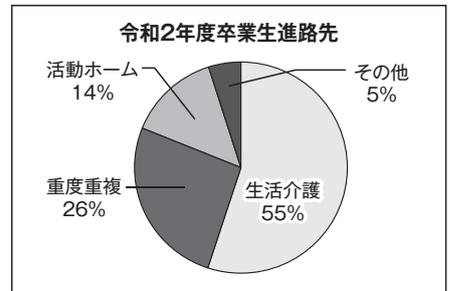
令和二年度の特別支援学校等卒業生は八十七名。その内、重度重複障害の生徒は六十二名、医療的ケアを必要とする生徒は二十六名である。特別支援学校等に在籍する生徒数は増加傾向にあるが、重度重複及び医療的ケアを必要とする生徒数は、年により多少の増減があるものの、ほぼ横ばいで推移している。

＜学年別＞ 重度重複・医療的ケア生徒数

卒業年度 現在の学年	R2	R3 現高3	R4 現高2	R5 現高1	R6 現中3	R7 現中2	R8 現中1
在生徒数	817	762	753	759	909	917	1,075
重度重複・生徒数	62	47	62	52	57	35	49
医ケア児童・生徒数	26	22	27	21	25	24	23

小学校から高等学校

令和二年度の特別支援学校等卒業生は八十七名。その内、重度重複障害の生徒は六十二名、医療的ケアを必要とする生徒は二十六名である。特別支援学校等に在籍する生徒数は増加傾向にあるが、重度重複及び医療的ケアを必要とする生徒数は、年により多少の増減があるものの、ほぼ横ばいで推移している。



生徒の受入れが多かったことが要因として考えられる。

また、重度重複及び医療的ケアを必要とする卒業生の進路結果は、生活介護が五十五%、重度重複施設が二十六%、活動ホームが十四%となった。昨年度の進路結果と比較すると、生活介護事業所の割合が二倍以上増えた。これは、新規参入の法人や株式会社

が新設した生活介護事業所で重度重複や医療的ケアを必要とする

委員長 柚木園惇氏 (神奈川県立みどり養護学校) より

先述の通り、重度重複生徒や医療的ケアが必要な生徒の進路先の確保には、今後も課題が残る。児童生徒の全体数が増えていく中で、横浜市とも連携しながら、計画的な事業の整備をお願いしたい。

「移動が自立している医療的ケア児童生徒数」も調査しており、今年度は小学校一年生から高校三年生まで、二十九名が在籍している結果となった。状態像としては「気管切開を

しており、歩行は自立」「経管栄養と吸引が必要で電動車いすによる自走」等である。医療的ケアと事業所の活動内容のバランスを配慮すると、生徒の適性にあった進路決定が難しい

ケースがある。本人・保護者の思いを進路先

いかに理解していただき、ご協力いただければ、進路対策研究会として、各機関と連携を図っていききたい。

ファッションカタログ ベスト3発表!

十二月上旬、戸塚区にある「いとぐるま」では、一足早くクリスマス会が開催された。通所している太田春美さんは、毎年恒例のメンバー発表に向けて、一カ月前から職員と二緒に準備を進めてきたという。

出番が来ると、少し緊張した面持ちで前へ出て、模造紙を貼り、発表を始めた。タイトルは、「自分の好きなファッションカタログベスト3」で、第三位から順にカタログ名と写真、特徴や好きなところ等を説明していく。「毎年トレンチコートやワンピースが

乗っている」、「パリエーションが豊富でインテリアもある」と各誌の特徴や傾向が自身の言葉でまとめられていた。第一位のカタログ

表では、「今日着ているトップスもここで買いました」と笑顔を見せた。お洒落な太田さんの発表に参加者は興味津々で、終わった途端、「すごい！」と歓声が上がった。

子どもの頃からお洒落が大好きで、カタログを毎月購入してきたそう。日々、コーディネートには気を配っており、カタログを参考に、服の色や形をバランス良く組み合わせている。働いたお金で新しい服を買うことが楽しみに繋がっているそう。今年度は冬はコートが欲しいから安くなるタイミングを狙っているんだ」とお話しされていた。



指で差し示しながら発表する太田さん

障害者後見的支援室の取り組み 『バッジ』で広がる 『さぽーとうみ』の輪

『さぽーとうみ(港北区)(※1)』では、後見的支援制度の利用登録をした障害のある人(以下「登録者」)だけでなく、地域の誰もが安心して暮らすことができる街を目指した取り組みを行っている。

バッジの制作

『さぽーとうみ』では、あんしんキーパー(以下「キーパー」)(※2)に登録してくださった方にカード型の登録証



せいがいほ『青海波』…無限に広がる穏やかな波に、未来へと続く平和と幸せな暮らしへの願い
『クジラ』…海の中で大きな動物であり、『さぽーとうみ』が大きな力で温かく利用者をサポートする想い

パーだけでなく、登録者にも範囲を広げ、昨年の四月から約二五〇個を配布した。

様々な反響

リュックや帽子、ジャケットや車いすなど、思い思いにバッジを身につけた登録者が『さぽーとうみ』の面談に訪れる。

登録者の田辺誠さんは「友人から『このバッジは何?』と尋ねられ、自分なりに説明した」と話す。キーパーとして登録をしている母のはつ子さんも「街でバッジをかばんにつけている人を見つけた時、この人も『さぽーとうみ』とつながっている」とわたり、嬉しい気持ちになった」と語る。

また、田辺さんのキーパーの齋藤さんは「娘も興味を持ち、『これは、クジラの尾っぽだね』とバッジを見て話している」と教えてくれた。
バッジをきっかけに、『さぽーとうみ』の輪がさらに地域へ広がることを期待している。



「わたしたち、かばんにバッジをつけています!」
左から、母のはつ子さん、誠さん、キーパーの齋藤さん

※1さぽーとうみ

登録者の日常生活を、責任者担当職員、あんしんサポーター、あんしんマネジャーのチームで見守り、親なきあとも登録者の願う地域での暮らしが実現できる方法を一緒に考えている。また、登録者を知っている人を増やすため、あんしんキーパーをはじめとした地域での見守りの体制づくりにも取り組んでいる。

※2あんしんキーパー

障害のある人の地域生活を見守っていただくボランティアとして、後見的支援室に登録して活動している。それぞれの可能な範囲で、登録者をさりげなく見守る場合や、地域で暮らす障害のある人を広く見守る場合がある。



～ジャイアンツ愛～
まってる(栄区)
谷村 学さん

熊本生まれ、横浜育ちの谷村さんは子どもの頃から野球好き。数ある球団のなかでもジャイアンツ愛にあふれている。きっかけは十一才のときに父親に連れて行ってもらった横浜スタジアムでのプロ野球観戦だった。

そのときからジャイアンツが大好きで、野球カードの収集や観戦チケットの半券を大事に保管してきた。大人になるにつれ、最良の選手のレプリカユニフォームを購入したり、甲子園まで応援遠征をしたり、大好きなジャイアンツが生活の一部になっていた。

特に好きな選手は現在、監督として指揮を執る原辰徳氏とゴジラこと松井秀喜氏、高橋由伸氏。打つ姿も守る姿も格好よく、まさに歴代のミスタージャイアンツの面々だ。



松井選手のユニフォームを着て

コレクションの数々



あゆみ荘 だより

障害のあるお子さんと そのご家族の 写真展を開催

横浜あゆみ荘では障害者週間に合わせ令和三年十二月二日から十五日まで障害のあるお子さんとそのご家族の写真展を開催しました。

展示した写真は障害のあるお子さんとそのご家族の写真を撮り続けているフォトグラフィア後藤京子さんの写真。写真からは家族全員の素敵な笑顔と暖かい幸せが溢れています。

また会場には障害の



笑顔溢れる写真



鮮やかな飾りが写真展を彩る

ある方々が製作した色鮮やかな飾りをバックにしたフォトブースも設置され写真展を彩っていました。

来場者は「コロナで大変な中ですが素敵な写真を見て元気をいただきました」と笑顔で話されていました。

『てつなぎつづき』 オンライン交流会を開催

十二月六日に横浜あゆみ荘にて都筑区障害者事業所ネットワーク『てつなぎつづき』第二回オンライン交流会が開催されました。

『てつなぎつづき』は各事業所の皆さんが会

場に一同に会しての交流会を行っていましたが、コロナの影響により一昨年からオンラインでの交流会を行うようになりました。

前日夜からオンラインの動作確認や会場設営などの準備を行い迎えた交流会当日、しりとりやビンゴなどのゲームが行われ皆さん大いに楽しんで交流を図っていました。



各事業所をオンラインで結んでの交流会

あゆみ荘はフリーWi-Fiを研修室等でご利用できます。オンラインでの活動にもぜひご活用ください。

お問合わせは、
横浜あゆみ荘まで
☎045(941)83883

ハートメイド通信 ハートメイド カタログ改訂

二年ぶりにハートメイドカタログが改訂となりました。

今回はマスクのカテゴリを新しく作り直しました。現在、マスクは外出時の携帯必需品となっており、さまざまな柄・形のものがありますので、自分に合ったものを見つけれられると思います。また、食事の時など、外したマスクを保管するマスクケースもあります。各作業所が工夫し製作した商品となっております。

家でゆっくりコーヒータイム、そんな時にぴったりのお菓子の新商品をご紹介します。「ぴぐれつ」とのフレーククッキーはサクサクとした食感で甘さ控えめです。甘いものがお好みの方には、フロランティーヌがお薦めです。厚いビスケット生地にはキャラメルアーモンドがのった、甘



く食べ応えのあるクッキーです。コーヒーとの相性も抜群です。カタログに掲載されている商品は、作業所のメンバーが、心を込めて作り上げた商品です。ぜひ、二度手に取り、商品のすばらしさを感じていただけたらと思います。

【お問い合わせ】

障害者支援センター
ハートメイド担当

☎045(681)1131

※カタログ請求無料。
電話にてご連絡ください。
また、HPのオーダーフォームから注文可能です。

支援センターだより

「令和四年感謝の集い」
について

「令和四年感謝の集

い」式典は、新型コロナウイルス感染症の影響により、やむをえず中止となりましたが、永年にわたり障害児者福祉の向上にご尽力くださっている方々に、感謝状と記念品を贈呈しました。活動者の皆様は、感染症予防対策で福祉団体の活動が狭められる中、つながりを持ち、それぞれができる範囲で活動を続けておられます。団体からの推薦文には、支えられている感謝の思いがあふれていました。

感謝の集い受賞者

- 松元大樹様、田島弘美様、泉常子様、丸山正美様、丸山康二様、野内美太様、高橋雅子様、塩釜由美子様、小林重雄様、小林篤様、黒川美穂子様、浦田沙奈美様、蔵本美佐子様、岩澤裕佳子様、横田潤子様、遠藤明子様、佐藤榮二様、石塚喜三枝様

(順不同)